

バイオエタノール普及促進に向けて

2026年6月1日
一般社団法人 日本自動車工業会

CO₂削減に向けた自工会の取り組み

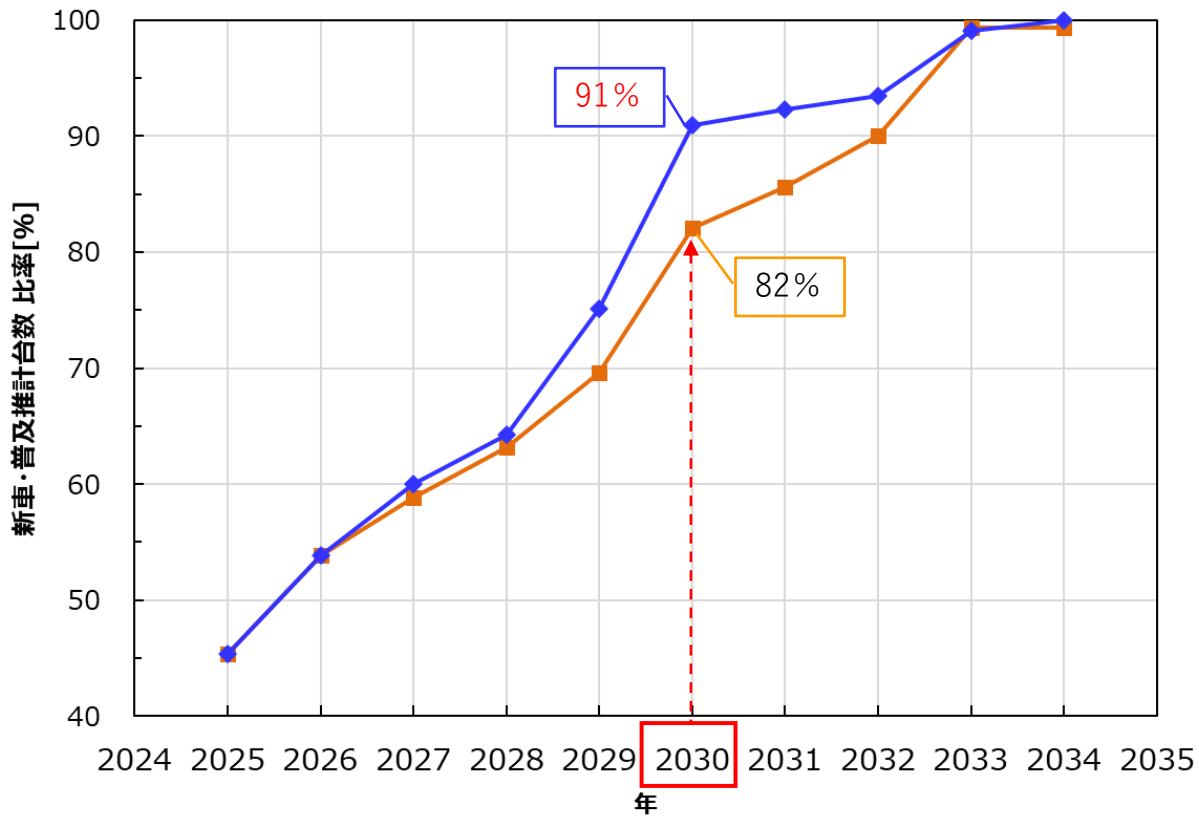
1. 自動車業界は、CO₂削減という政府の大きな目標に向けて、「マルチパスウェイ」の観点で取り組んでおり、その1つの道である、「持続可能性燃料」の観点で、エタノール混合ガソリンに対応した車両の市場導入促進で努力しております
2. エタノール混合ガソリンを活用したCO₂削減を進めるためには、以下の3つの観点が必要と考えます
 - ・E10認証車/E20認証車を市場導入、拡大すること
 - ・E10燃料/E20燃料を市場導入、拡大すること
 - ・お客様にE10燃料/E20燃料が使用されること
 - 経済合理性があること
 - 安心・安全に使用できること

需要量拡大のための自工会内スタディ

- | | | |
|--|---|-------------|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 自動車各社へのお願い：E10認証、E20認証の促進 2. 普及支援策（E10/E20活用の評価等）での車両対応促進効果の検討 3. E10およびE20認証車に関わるデータの整理（保有台数、保有台数予測等） | } | 実施済み(P4,P5) |
| <ol style="list-style-type: none"> 4. エタノール混合ガソリンが使用可能な車両の増加策の検討
例) 材料適合車が活用できないか 5. エタノール混合ガソリンの需要増加策の検討
例) 自動車各社関連での需要増加の可能性検討 | } | 検討中 |
| <ol style="list-style-type: none"> 6. 経済合理性の検討 →石油業界、政府との共同検討が必要
例) 輸入価格低減、設備投資最小化、燃料価格体系変更、グリーン燃料証書
GX-ETS、GHG プロトコル 等 7. 発信
例) 消費者への啓発活動 →石油業界、政府との共同検討が必要 | } | 今後 |

自工会-石連での協力活動開始

E10・E20認証車の新車普及台数 推計



— ケース① — ケース②

ケース① :

2030年時点では、新車普及率は**82%**程度。
E20認証制度が2030/4/1開始の場合、E10 + E20認証車が増える傾向。

2033年に100%

ケース② (最速シナリオ)

下記の場合*1において、2030年時点でE10 + E20認証新車普及比率は**91%**程度となる推計。最速ケースに最も近い。その後約4年かけて100%近傍に。

*1：燃費基準等において、持続可能燃料の活用が評価される場合（出典：令和7年11月内閣官房GX実行推進室 https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/gx_jikkou_kaigi/senmonka_wg/dai12/shiryo.pdf） P.44

保有車両台数におけるエタノール認証車比率

- ✓保有車両台数（ストック）ベースでは、
2030年エタノール認証車(E10+E20認証)
は**40%台**
- ✓E10認証なし（E0認証）車両の中で、
燃料系統部材のエタノール対応済み車両の
過去販売台数を調査し保有車両台数を推計
（エバポ適合は未確認）
→2030年に**82%**と推計

